

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	キリンサイ養殖事業に携わる零細漁民が、キリンサイの特性を生かした石鹼、ローションの作り方や新しい調理方法を身に付け、健康的で環境に留意した生活スタイルを獲得し、上位目標ほぼ100%達成した。
(2) 事業内容	2016年9月: ・本部事業担当、本部プロマネ並びに本部専門家による加工食品の生産に関するセミナー・石鹼生産に関するセミナー開催 ・月例ミーティング2回開催 ・各村での共同作業週2回実施 2016年10月: ・月例ミーティング2回開催 ・各村での共同作業週2回実施 2016年11月: ・各村での共同作業週2回実施・月例ミーティング2回開催 ・本部事業担当、本部プロマネによる月例ミーティング並びに女性グループのためのキャパビルセミナー開催 2016年12月: ・ドンブ県内の講師による食品加工に関するセミナー開催 ・月例ミーティング2回開催・各村での共同作業週2回実施 2017年1月: ・各村での共同作業週2回実施・月例ミーティング2回開催 2017年2月: ・各村での共同作業週2回実施・月例ミーティング2回開催 ・リーダーミーティング開催 ・ドンブ県内の講師による石鹼に関するセミナー開催 ・各村での共同作業週2回実施 2017年3月: ・月例ミーティング2回開催 ・各村での共同作業週2回実施 ・本部専門家による評価並びに中間報告書作成 2017年4月: ・月例ミーティング2回開催 ・各村での共同作業週2回実施 ・本部専門家による加工食品の生産に関するセミナー開催 ・作業場修理(ソロ村、トロカロ村) 2017年5月: ・月例ミーティング2回開催 ・各村での共同作業週2回実施 ・本部専門家による養殖事業の運営・管理に関するセミナー開催 ・本部専門家より現地に適した海藻乾燥資材、設置方法の指導と確認 ・新たな海藻養殖場所の開拓 2017年6月: ・月例ミーティング2回開催 ・各村での共同作業週2回実施 ・本部事業担当、本部プロマネによる月例ミーティング並びに本部専門家による石鹼・ローションの生産に関するセミナー開催 ・伝統的な地域に特化した植物の根、実、葉などの天然素材、また炭を使ったローション・石鹼作りを行う。 2017年7月: ・月例ミーティング2回開催 ・各村での共同作業週2回実施 ・ジャカルタ在住専門家による海藻を原料とした食品、及び化粧品等に関しての

	セミナー開催 ・女性グループへの研修の実施 ・女性の外部での活動と家事との両立に対する配偶者からの理解と協力体制が確保されはじめた。 2017 年 8 月: ・リーダースミーティング2回開催 ・各村での共同作業週2回実施 ・本部専門家による養殖事業の運営・管理に関するセミナー開催 ・在デンパサールン本総領事公邸にて報告会を行う。 ・現地フィールドスタッフリーダー女性 2 名、及び本部スタッフにてバリ島で研修を行う。 2017 年 9 月: ・月例ミーティング1回開催 ・各村での共同作業週2回実施 ・県内講師による女性リーダーの為のキャパビルセミナー開催 ・漁業局、保健局と連携し、今後共同での企画等に女性グループが参画 ・スンパワ島に於いて事業終了のための報告書作成・外部監査の準備を開始。 ・9 月 9 日、本事業終了。
(3) 達成された成果	成果 1: 2 村の女性グループが、養成され組織化された。 指標 1-1: 2 村にキリンサイを加工、利用して作業をする女性グループが、発足した。 指標 1-2: 2 女性グループ (ソロ村 10 名、トロカロ村 8 名に新メンバー 5 人が加わり、保健衛生・環境保護について関心を持つようになった。 指標 1-3: 女性が、保健衛生・環境保護の知識を得、母子教育や環境改善活動に於いて身丈にあった活動の在り方について意見交換できるようになった。特筆すべきは、ゴミの回収に関して、行政に頼るのではなく、自力で実行可能ないくつかの小さな取り組み、例えば、自主的に自宅周辺のごみ拾いなどを模索するようになった。これは、次期案件に繋がる成果である。 以上は、「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標(ゴール)5 の 5.5, 5a, 5b, 5c に向けた試みであり、成果である。 成果 2: キリンサイの利用に関する能力と知識が向上した。 指標 2-1・指標 2-2: 2 グループの女性全員が、キリンサイを使ってクルブック (揚げせんべいに類似) とそれ以外の加工技術を習得し、10 種類の加工食品、新レシピを創作した。 指標 2-3: 2 グループの女性全員が、石鹸、ローション、クリームを生産に必要な基礎的知識を習得した。入手可能で、安全性の高い天然の材料に関する知識を得ることができた。石鹸の生産に使用可能な水と不適切な水の区別など新たな発見と商品の開発を、女性グループ主導で進められるようになった。 指標 2-4: 2 つの女性グループが、協力しながらキリンサイを利用した基本的な石鹸、ローション、クリームを生産できるようになった。 特に、バリ島に於ける研修中、大型店舗や著名な小売店で、石鹸や食品等の質、パッケージ、ディスプレイの仕方など、スンパワ島では触れることのできない感覚を養うことができた。さらに、女性グループの全メンバー並びに全スタッフが、専門家橋本はづきとのかかわりの中でワークライフバランスを強く意識するようになり、生産性の向上と女性ならではの視点で新規商品の創出を考案できる体制が整ってきた。また、作業場の整備がなされ、衛生的な環境が 2 村で確保できた。 成果 3: 直接受益者のほぼ半数に当る女性に就労機会を与えられた。指標 3-1: 現金収入の少ない女性が、キリンサイ養殖事業に関心を持ち、女性グループのメンバーでない約 12 世帯の女性がセミナーに参加した。 指標 3-2: トロカロ村、ソロ村共に収穫毎に約 300 キロの種を確保出来る

	ようになり、一部女性の副収入になったため、ジェンダーバランスの大切さが家庭内や村内である程度意識され彼女たちの居場所が確保出来た。 指標 3-3: 直接受益者である女性グループのメンバーの半数が、一世帯当たり月収約 800,000 ルピア（約 7,500 円）を得ることができた。 以上、成果 3 は、「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標（ゴール）8 の 8.3, 8.4, 8.6 に向けた成果である。 成果 4: キリンサイ事業を生業とする零細漁民が、5 世帯増えた。 指標 4-1: 12 世帯の女性が、新たにキリンサイの加工並びに養殖に関するセミナーへ参加した。その内、5 世帯がキリンサイ養殖を生業とした。 指標 4-2: キリンサイ養殖事業に従事する男性グループと女性グループの意見交換が、円滑になってきた。配偶者の男性から活動に対する理解と各女性メンバーの家庭でも役割についての理解並びに協力が得られるようになった。 指標 4-3: ドンブ県内外に、本案件の成果を踏まえ、また当会とドンブ県漁業局が定期的に情報交換をしてきた過程で、キリンサイ養殖事業を零細漁村の村興し並びに新たな生活スタイルを提示するパイロットプランとして紹介したいと同県漁業局が考えるようになった。パンフレットの作成と配布計画が、次期案件に引き継がれることを期待する。 以上、成果 4 のここまでの成果は、環境破壊による沿岸漁業の漁獲高の減少に直面している実施地域にとって「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標（ゴール）13 の 13.3, 13.b に対応している。 指標 4-4: キリンサイ養殖事業従事者並びに女性グループのネットワーク構築が開始された。・マルガレワ郡ナンガトゥンプ村で、キリンサイ生産に興味を持つ男女混合グループが生まれた。・零細漁民女性ネットワーク構築を目指し、トロカロ・ソロ両村の女性リーダー各二人が中心になって SMS を通じネットワークが具体的に広がり、クワンコ地区などキリンサイ養殖が盛んな地域の女性との交流機会が増えてきている。地域全体での地場産業としてのキリンサイ養殖事業並びにキリンサイを利用した加工製品の商品化が進めば、「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標（ゴール）14 の 14.1, 14.2, 14.4, 14.6, 14.7, 14.b を達成することに繋がる。
(4) 持続発展性	現金収入の増加が主目的ではなく、生活スタイル・生活環境の改善を先ず目指す価値観が、女性メンバー間に芽生えてきている。また、各自が各々の役割を自覚し、協力し合って社会的、環境的、経済的質の向上を目指す男女間の協力体制が、家庭と村落共同体の中で芽生えてきている。これまで通り、キリンサイの養殖に関してアイスアイスなどからの予防、対応に注意を払いながら、キリンサイの生産と加工製品の創出、また、その品質管理の向上が期待できる体制が整いつつある。上記に既述のように、地域全体での地場産業としてキリンサイ養殖事業並びにキリンサイを利用した加工製品の商品化を進め、養殖事業者による組合組織の構築と同県漁業局との協力によって持続可能な事業としていく。また自立可能な事業体制が整うまでの期間、N 連次期案件も含め、本会が継続して指導、評価にあたる。また、同州内最大の高等教育機関であるマタラム大学漁業学部から技術面、人材育成面でのサポートが得られるよう数年間で連携体制を整える。 さらに、キリンサイの特性を生かした新たな利用方法を発見、習得することを通じて、健康と環境保護を重視した環境に優しい生活スタイルを地域の住民に提案することになる。